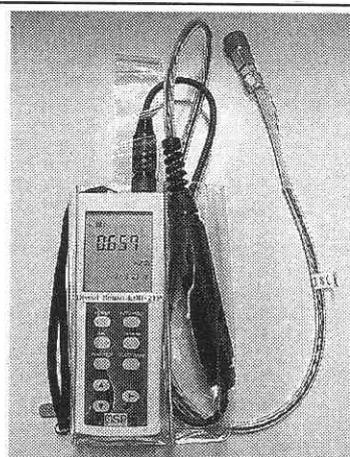


日経産業新聞

THE NIKKEI BUSINESS DAILY

ベンチャー・SOHO・店頭



液晶画面の数値で純度がわかる

ディーゼル自動車

燃料純度、5秒で検知

OSPがセンサー開発

不正軽油の検査向けに

センサー開発のオー・エス・ピー(OSP、埼玉真狭山市、山本弘信社長、042・968・2282)は、トラックなどディーゼル自動車の燃料の純度を五秒程度で調べられる小型センサーを開発した。税率が低い別の油を混ぜて使う不正軽油の路上検査を進める地方自治体の需要を掘り起す。

開発した「軽油チェッカー・ディーゼルセンサー」は親指大のセンサー部分を車の燃料タンクに差し込んで使う。センサーは有機物質を吸収する高分子膜できている。油を吸収した膜にレーザー光や発光ダイオード(LED)の光を当て、反射光の量の違いなどをとに成分を分析。液晶画面に数値を表示して純度を調べる。本体部分は片手で持てる大きさ(重さ六百五十g)で乾電池で動く。路上検査の現場での使い勝手に配慮した。

従来は路上検査でディーゼル車から採取した燃料を一度、分析機関に持ち込んで検査。結果が分かるまで二日から一週間程度の日数がかかっていた。OSPは分析機関で調べる検体を絞り込む用途(二次スクリーニング)を提案する。また、自治体ごとの要望に応じた受注生産で、価格は未定。展示会などを通じて自治体や販売代理店を開拓、初年度五十台の販売を目指す。軽油には一リットル三十二円十銭の都道府県税(軽油引取税)がかかる。脱税を目的に軽油に成分が近いA重油や灯油を混ぜる手法が横行、「脱税規模は全国

で年間千五百億円程度にのぼると考えられている(東京都軽油特別調査室)。東京都の場合、警視庁が路上で実施するトラック過積載検査などに合わせ、抜き取り検査を定期的の実施している。

OSPは独ヘキスト日本法人の研究開発部門出身の山本社長が独立して、一九九八年に設立。リストラ(事業の再構築)で中断された研究開発テーマを引き継いだ。今回のセンサーが第一弾の製品。二〇〇二年十月期の売上高は三千万円の見込み。

公共工事を受注した企業に対して工事用車両の燃料検査をする際にも、簡便な検査手法として売り込んでいく考え。